特集

秋はブラナゴ！

e-bikeで巡る名護まち歩き

構　成／オキナワグラフ
撮　影／屋比久光史
コースプランニング／ナゴラブ
モデル／第46代名護さくらの女王（土居脇奈緒、田場菜都美、比嘉万実）
協　力／e-bike-okinawa、名護市、名護市商工会、（公財）名護市観光協会、宮里武志（沖縄県サイクリング協会）、吉田岳人（おきなわさんぽ）

特集

秋はブラナゴ！

e-bikeで巡る名護まち歩き

1970年、名護町・羽地村・屋我地村・屋部村・久志村の1町4村が合併して誕生した名護市。昨年の市制施行50周年を機に発足した「ナゴラブ」は、誰よりも名護を愛して止まないナグンチュ（名護人）らが運営する観光＆地域情報サイトだ。
「通り過ぎたら、いちゃさんどぅ（もったいないよ）」…ナグンチュだからこそ知っている、深イイ名護をじっくり巡りたい。名護はとっても広いから「名護・屋部地区」「久志地区」「羽地・屋我地地区」の3エリアに分け、電動アシスト自転車（e-bike）でブラブラと漕いでみたい。
3エリアの紹介は「第46代名護さくらの女王」の3人が快く引き受けてくれた。電動アシスト自転車を手配してくれたのは「e-bike-okinawa」代表の伊波寛人さん。ついでにメイキング動画も撮っちゃおう！と、ナゴラブの映像制作班も同行する運びになった。
段取りはカンペキ！ レッツ、いちゅんどー（行くぞー）！

3エリアをすべて走破した「e-bike-okinawa」代表の
伊波寛人さん

名護・屋部地区

名護湾に面するやんばる全体の中核エリア

1.「電動アシスト自転車に乗るのは初めて」と目を輝かせる田場菜都美さん　2.「ほどよく田舎で自然の近い名護が好き」と語るナゴラブの渡具知美奈子さん　3.首里の殿様が村の娘を見染め、その手に水を汲ませて飲んだとの伝承が残る「許田の手水」

伝説の湧水から自転車旅スタート！

名護市の指定文化財「許田の手水（てみじ）」は豊かな水の湧く清泉だ。ここに集結したのは名護・屋部地区を探訪する3人。名護さくらの女王の田場菜都美さん、ナゴラブの渡具知美奈子さん、そして「e-bike-okinawa」の伊波寛人さんだ。旅の安全を拝んでいざ出発！

一行は装いも新たな道の駅「許田」で早々に停車。駅長の金良宗貴さんお薦めの「チョコもち」を堪能し、さらに北を目指す。

4.旅の安全をウートートー　5.道の駅「許田」の海側に新設された駐車場。国道58号を跨ぐ「空中通路」を渡って入店する　6.25年以上の歴史を持つ「チョコもち」。ここでしか作っていない"超"地産品だ　7.中級食品表示診断士の資格を持つ金良宗貴駅長（右）　8.「ナントゥーにも似てるけどケーキっぽい新食感」と田場さん

道の駅 許田
名護市許田17-1
TEL.0980-54-0880

東江海岸、そして名護市営市場へ

道の駅「許田」を出た一行は、ブルーシール名護店の裏から東江海岸に出た。雨雲が去来する天候に、あけみお（夜明けの静かな入り江の美しさを称える言葉）の誉れ高き名護湾もやや精彩を欠いている。

国道58号を渡り、樹齢300年を数える名護のシンボル「ひんぷんガジュマル」をくぐって名護市営市場へ。「なかむら製菓」と「宮城菓子店」の2店は、それぞれ洋菓子と和菓子でナグンチュ（名護市民）に長年支持されてきたお店だ。

なかむら製菓は1965年頃の創業で、店主の仲村亨さんは2代目。先代からの銘菓「おじぃ自慢のエンゼルケーキ」をはじめ、1個150円と値段も手ごろなシュークリームが地元客に人気とのこと。

宮城菓子店も先代が半世紀近く続けた老舗で、現在の宮城夫妻が後を継いでから17年経つという。妻の登喜子さんが薦めてくれたのは「マキガン」。どらやきのような生地に羊羹のようなあんが巻かれたロールケーキ風のお菓子だが、控えめな甘さは出色のおいしさだ。

1. 吹き付ける風も強くなってきた…　2. 樹高約19メートル、幹回り約10メートルの「ひんぷんガジュマル」は国指定天然記念物でもある　3. 名護市営市場に到着～　4. 田場さんが日頃からよく行くという「なかむら製菓」　5. 「シークヮーサーゼリー」を薦める店主の仲村亨さん。ヨーグルト感覚で作ったとのこと　6. 行事菓子や法事菓子が豊富な「宮城菓子店」。松風は結納の定番だ　7. 「マキガンはあんから炊いているので冷蔵庫に入れてね」と登喜子さん（左）

名護市営市場
名護市城1-4-11
TEL. 0980-52-0780

津嘉山酒造所
名護市大中1-14-6
TEL.0980-52-2070

1. 看板商品「國華」ののれん　2. 昭和初期建造の醸造所内　3. 名物杜氏の秋村英和さん　4. あまはじの下でにわか雨が止むのを待つ…
5. 名護出身の実業家、崎山喜昌（1908-1995）はオキナワグラフの創刊者でもある　6. 「崎山図書館」跡。現在は名護市教育委員会文化課が市史編さん室として活用している

いにしえの蔵、いにしえの人

次に向かったのは大正13（1924）年頃に創業された津嘉山酒造所。昭和2～4年にかけて建設された醸造所は国指定重要文化財に指定されており、2005年には歴史的価値の保存と街中観光の拠点としての活用を目的に「津嘉山酒屋保存の会」が発足している。

縁側で雨宿りしていた田場さんは「ここで飲む國華はまた味わい深いでしょうね…」としみじみ。杜氏の秋村英和さんが奥から現れて、しばしの泡盛談義をしてくれた。

津嘉山酒造所からほど近くにある「崎山図書館」跡は、オキナワグラフの創刊者である崎山喜昌（1908—95）が名護に寄贈した建物だ。1世紀前の人々の息づかいが残る名護まちを抜け、21世紀の森ビーチ沿いに屋部方面へ自転車を漕いでいく。

タピックスタジアム名護を通りかかった時、名護さくらの女王を所轄する名護市観光協会の前田裕子理事長と出会った。田場さんは「電動アシストの威力がすごいんですよ」と笑顔で報告している。

7. 21世紀の森ビーチ沿いに西へ進む　8. 「名護は便利な田舎。街から30分圏内に名護城（ナングスク）や嘉津宇岳などの大自然があるのが魅力」と語る前田裕子理事長（右）

屋部は〝名護のビバリーヒルズ〟

一行はさらに北西へ進み、屋部小学校を右折して屋部の集落へ。うっそうとしたフクギの屋敷林が緑のトンネルをつくっている。

「この辺は『屋部エーキ』と呼ばれる有力者が暮らしていた地域です」と渡具知さん。レンガの門柱が目を引く久護家は明治39（1906）年に建てられた豪農の家で、県の有形文化財に指定されている。

久護家からフクギのトンネルをさらに分け入ると、北部のパワースポットとして名高い凌雲院（屋部寺）に到着した。凌雲和尚が1692年に開いた寺で、本尊の薬師如来像をはじめ7体の仏像が納められた小堂には拝みの人がひっきりなしに訪れている。子宝祈願や病気回復を願う人たちが多いとのこと。

境内には立派な鐘楼が設えられている。「私も除夜の鐘の行列に並びますよ。地元の婦人会が炊き出しをしたりして、かなり賑やかです」と田場さん。どうやら〝普段使い〟のお寺のようだ。今年の年末はそんな光景が見られるだろうか…。

1. フクギの屋敷林　2. 県指定有形文化財「屋部の久護家」。渡具知さんいわく「申請すれば結婚式の会場としても使える」そう　3. 凌雲院入口。寺の開祖や雨乞いの伝承などが刻まれた石碑が建つ　4. 小堂ではいつも誰かが拝んでいる　5. 除夜の鐘の常連?の田場さん

Makai421
名護市屋部421
TEL.0980-54-4032

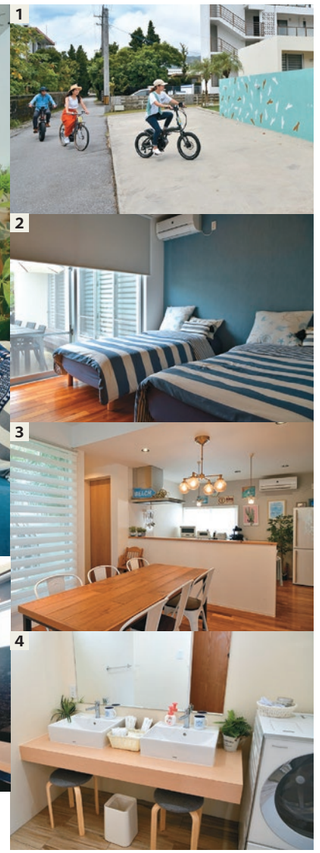
1. Makai421。マカイはご飯茶碗… 421は?「番地です」　2. 豆乳スープの冷やし大麦ベジ麺　3.「エスニックな感じで麺がムチムチ♪」との食レポ　4.（左から）保崎順子さんと山田康子さん

屋部のステキな食と宿

ランチに立ち寄った「Makai421」は、御年80歳の保崎順子さんと娘の山田康子さんが営むヘルシー志向の料理店だ。一行はフォーやベジ麺を思い思いに堪能し、本日の体を休める宿へと向かう。

住宅街にたたずむ「ホテル ヤンバルニア」は、1棟貸しの室内にトイレも洗面台もベッドルームも2つあり、今回のような混成軍で泊まるには最適な宿だ。「我那覇ミートでBBQセットも頼めますよ」と屋部さん。電動アシスト自転車で気ままに旅をし、自由度の高いステイを愉しむ。ソロキャンプがブレイクする今、こんな自律的なスタイルは今後の主流となるかもしれない。

1.「ヤンバルニア」は山と海と町のある屋部を「カリフォルニアみたい」と感じたオーナーによる命名だ　2. 白とインディゴブルーと無垢材をベースカラーにしたベッドルーム　3. 広々キッチン　4. 広々洗面台（2カ所あり）　5. 広々シャワールーム　6. オーナーの屋部憲史朗さん



ホテル ヤンバルニア
名護市屋部538-2
TEL.0980-43-9570
https://yanbarunia.com

久志地区

太平洋に面した自然豊かなイーストサイド

1. 名護さくらの女王・比嘉万実さんは日頃から自転車を楽しむサイクリストでもある　2. 沖縄県サイクリング協会の宮里武志さん。自転車ツアーの安全管理はお任せ　3. 電動アシスト自転車もスタンバイしさぁ出発。ちなみに比嘉さんの乗るモデルは折り畳んで持ち運びが可能だ

海と緑に囲まれた久志地区

東海岸に面した久志地区は、手つかずの自然が残る風光明媚なエリアだ。山間の道も多くアップダウンの激しいコースだが、それこそ電動アシスト自転車の得意分野でもある。

名護さくらの女王・比嘉万実さんは高校時代に普通の自転車で名護市から那覇空港まで走ったという強者だが、電動アシスト自転車は初体験。

「車で通る時は気付かない場所をいろいろ見ていきたいですね」と期待を膨らませる。

カヌチャリゾート
名護市安部156-2
TEL.0980-55-8880
https://www.kanucha.jp/

1. 目の前にビーチが広がるカヌチャリゾート　2. 薪で炊いたご飯に味噌汁、焼き魚と板前の技が光る和朝食　3. 7月にリニューアルオープンしたカヌチャスイート　4. イルミネーション煌めく名物イベント「スターダストファンタジア」は11月から開催予定（写真提供・カヌチャリゾート）

5. バルコニーからの景色は最高　6.「チェックアウトしたくなーい」と名残惜しそうな比嘉さん　7. 広々とした洗面台とバスルーム。アメニティはすべて天然由来のもの

三原共同売店
名護市三原250
TEL.0980-55-8066

1. 売店にすべり込む一行　2. たまたまお店に来ていた三原区長の伊波安志さん　3. 比嘉さんも大好きだという「三原なんとう」は黒糖ともち粉で作った伝統のお菓子だ　4. サーターアンダギーやスクガラスと品揃えはさまざま　5. 店番をしていた高里さん。お母さんが店主なのだそう

カヌチャリゾートで迎える朝

今回のスタート地点は、大浦湾を望む丘の上にある「カヌチャリゾート」。久志の緑に抱かれた敷地内にはゴルフコースもあり、自然に囲まれた解放感とラグジュアリーな快適さを兼ね備えたリゾートホテルだ。比嘉さんも前日から1泊し、バルコニーから朝日に照らされる大浦湾の眺望を満喫した。

「普段から見ている海も、ホテルから眺めると改めて綺麗だなって感じますね」

朝食をとって身支度を整えた比嘉さんは、伊波さんとガイドの宮里武志さんと合流し、電動アシスト自転車のペダルを軽快に踏んでカヌチャリゾートを出発した。

遠出の前にカヌチャからほど近い三原共同売店に立ち寄り、飲み物などを購入。お弁当や総菜、日用雑貨などを揃えた区民ご用達のお店で、およそ60年前からあるという。三原区長の伊波安志さんによると「50〜60人くらいの区民が出資して立ち上げたんだよ」とのこと。建物自体は10年ほど前に建て替えられたが、半世紀以上区民の生活に寄り添ってきたお店なのだ。

集落の中には新たな驚きが

海沿いをしばらく走ると、古風な佇まいの民家が数多く残る汀間区に入った。宮里さんの案内で向かった先にあったのは、区の名物である「汀間の石敢當」。魔除けでお馴染みの石敢當だが、これほど大きなものはめったにお目にかかれない。

「上に『泰山』と刻まれているので、中国由来であることが分かります。久米島にもこのタイプの石敢當があります」と宮里さん。比嘉さんも「海沿いはよくバイクで走るんですけど、集落の中まで入ることはめったにないんで、初めて知りました」と驚き顔だ。

汀間区を抜け、一行は大浦湾に面した海岸線を走っていく。日差しは強いが海風が心地よい。これぞサイクリングの醍醐味だ。

しばらく走ると大浦共同売店に到着。こちらも三原区と同じく代々続いてきた地域のお店だ。店主は入札で決まるそうで、現在の店主である大城光正さんは11年目になる。「大浦だけじゃなくて地域全体の人たちが買い物にきますよ」とのこと。

1. 石敢當の近くにある拝殿「御拝小」は1957年に建立された　2. 民家の塀ほどの高さがある「汀間の石敢當」　3. 付近には汀間区発祥の古典音楽「汀間当」の歌碑も　4. 大浦湾に面した「瀬嵩の浜」を走り抜ける　5. 地域の人が利用する大浦共同売店。左側には農業用トラクターが　6. 品ぞろえはさまざま　7. 通りがかった中学生３人組と談笑。彼らはこれから遊びに行くところだそう　8. 店主の大城さん

大浦共同売店
名護市大浦121-6
TEL.0980-55-8107

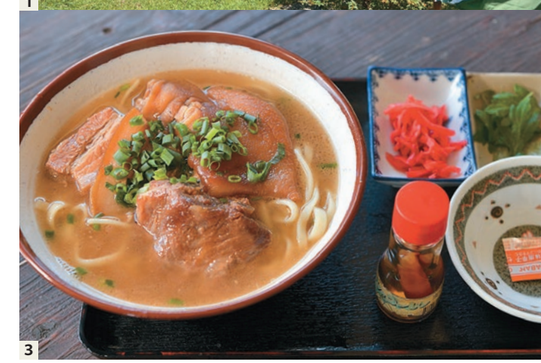
1. 橋を渡って二見のトンネルへ。実は上り坂なのだが電動アシスト自転車なら苦にならない　2. 1688年に設置された久志観音堂。地元では「ティラ」と呼ばれている　3. お堂の中に鎮座する観音石像「ティラヌタンメー」。表面の風化が進みつつあるため、造形を３Ｄデータとして保存しているそうだ　4. 久志区長の棚原憲栄さん　5. 「二見情話の里」の石碑前にて

歴史の中に佇む久志観音堂

二見楚久トンネル、二見杉田トンネルを抜け、一行は次の目的地、久志観音堂へ向かうことに。到着した久志観音堂はうっそうと茂る木々に囲まれ、まさに古色蒼然といった佇まいだが、取材時は金属製のパイプが周囲に立てられていた。案内してくれた久志区長の棚原憲栄さんによると、来年度の修繕工事に備えて寸法を測っているのだという。「長い歴史のある観音堂ですから、ちゃんとした形で次の世代へ継承しないといけませんからね」と展望を語ってくれた。

久志の旅もここで折り返しとなり、旧道を通って北上する。山間の道に入ると急勾配の上り坂・下り坂も増えてくる。「このあたりの道は昔の生活道路だったんですよ」と宮里さん。今では交通量も少なく、電動アシスト自転車で山の空気を吸いながら走るにはもってこいだ。その道すがら、民謡の「二見情話」で有名な二見区に立ち寄った。ここまで結構な距離を走ってきたが、比嘉さんは「まだまだ体力がある限り加速していきたいです！」と元気満々だ。

わんさか大浦パーク
名護市大浦465-7
TEL. 0980-51-9446



1. オープン10年目の「わんさか大浦パーク」。闘牛やジュゴンの像が出迎えてくれる　**2**. 名物のパインを品定めする比嘉さん　**3**. 施設内にある「お食事処南乃畑」にてお食事。ソーキ、三枚肉、てびちが入った「南乃畑そば」は食べ応え抜群　**4**. 山端商工会長とツーショット。比嘉さんの手前にあるのが「くくるBOX」

疲れた体に沖縄そばが沁みる

最後に立ち寄った「わんさか大浦パーク」で、名護市商工会の山端康成会長とばったりお会いした。「商工会では『くくるBOX』というパッケージで特産のPRをしているんですよ」と山端会長。名護の歴史や文化、特産を解説するイラストが散りばめられた箱は見ているだけでも楽しい。野菜やお菓子、お酒など特産品をこれに詰めて贈ればきっと喜ばれるだろう。

かなりの距離を走った久志めぐりもこれにて終了。比嘉さんは景色はもちろん史跡にも感銘を受けたようで「名護の歴史を受け継ぐためにも、もっと名護のことを知りたいと思いました」と今回の旅を締めくくった。

5. カヌチャリゾートへの帰り道はバスで。折り畳み可能な自転車だからこそなせる技　**6**. バスの下にある収納スペースに自転車をしまい、乗り込む比嘉さん。「お疲れ様でした！」

③ 羽地・屋我地地区

波の穏やかな羽地内海を囲む穀倉地帯

1. 名護さくらの女王・土居脇奈緒さん。広島県出身で、新鮮な目で名護の魅力を開拓中　**2**. 今回のガイドを務める「おきなわさんぽ」代表の吉田岳人さん。名護でのトレッキングやシーカヤックなどのエコツアーを運営している　**3**. 羽地エリアに向けて「なごアグリパーク」から出発！

名護の土で作る伝統の焼物

県内唯一の内海である羽地内海を越え、屋我地島まで走るのが今回のルート。最初に向かったのは18～19世紀頃に始まったとされる「古我知焼」を作っている古我知焼窯だ。

「一時期途絶えていたのですが、1974年に父が復活させ、今に至ります」と紹介してくれたのは娘の仲宗根志野さん。彼女も父・隆明さんに習いつつ独自の作品を作っている。伝統に新しい創意を加えた彼女の作品はまさに温故知新だ。

4. 古我知焼窯に到着　**5**. 古我知焼の器を手に取る土居脇さん　**6**. ヤギの意匠が入った作品は志野さんが手がけたもの　**7**. 志野さんは伝統に学びつつ独自の作風を確立している　**8**.「田港商店」でお買い物　**9**. 大きなチキンを買った土居脇さん。「おいしい！」とホクホク

古我知焼窯
名護市我部祖河916
TEL.0980-52-0727

魚から鶏まで羽地名物めぐり

一行は羽地内海に面した海岸沿いを通り、仲尾トンネルをくぐって東に向かう。仲尾次漁港が近づくと、潮風に混じる魚のにおいが鼻をくすぐる。いくつもの鮮魚店が立ち並ぶこの通りは「さしみや街道」と呼ばれ、魚や惣菜を買いに遠くからも人が訪れるエリアだ。土居脇さんも友達と来たことがあるそうで「ここのお店の味噌和えが美味しかったです」と振り返る。

さしみや街道を行った先に現れたのは「龍泉酒造」。老麹（ひねこうじ）にこだわった泡盛で知られる蔵だが、コロナ禍で4月から休業中…龍泉は次の目的地で買うとしよう。

そしてたどりついたのは、沖縄県羽地振興協同組合が運営する「羽地の駅 やんばるたまご」。野菜や果物はもちろん、当地の特産である羽地鶏や卵を販売している。

「羽地は養鶏が盛んな地域なので、羽地鶏を使ったタコライスや卵を使ったサーターアンダギーも販売しています。稲作も盛んですので、羽地米も人気の商品ですよ」と屋比久稔代表理事が教えてくれた。

龍泉酒造
名護市字仲尾次222
TEL.0980-58-2401

1. 羽地内海沿いの道には自転車専用道路が整備されている　**2**. 仲尾トンネル北側入口の碑。大正８（1919）年に開通したことが記されている　**3**. トンネル南側入口からは羽地内海が見える　**4**. やってきました さしみや街道。イユジョーグーは寄り道必至　**5**. 刺身が並ぶ与那嶺鮮魚店のショーケース　**6**. 龍泉酒造の酒造所見学は事前にお問い合わせを　**7**. 看板商品の泡盛「龍泉」と新商品の「シークヮーサー酒」

羽地の駅 やんばるたまご
名護市真喜屋763
TEL.0980-58-2358

8. オープン６年目の羽地の駅　**9**. 屋比久代表理事（左）と我那覇隆樹副代表理事　**10**. 名物「はねじ鶏の半身焼き」を前にテンションが上がる土居脇さん　**11**.「羽地米」はお盆前にはすべて売り切れてしまう人気商品

Good morning真喜屋
名護市真喜屋499-1
TEL.080-3983-0355

1. 水田地帯を走る自転車　**2**. 真喜屋ダムにて。水の流れる音は気持ちをリフレッシュさせてくれる　**3**. 雄鶏のマークが目印の「Good morning真喜屋」　**4**. 右から時計周りに「真喜屋の親子サンド」「真喜屋のマンゴーサンド」「本日の気まぐれサンド」　**5**. お店を切り盛りする店長の髙倉和恵さん（右）　**6**. 住宅街の中にこんもり盛り上がる「阿波茶武」の丘　**7**. こんな急坂も電動アシスト自転車ならばスイスイ　**8**. 東屋でランチブレイク

聖域とサンドイッチ

米どころの羽地には水田が多い。水を湛えた田んぼの脇を走るのは沖縄ではレアな体験であり、独特の涼しさが感じられる。

「羽地地域は水を蓄える山と平地がありますから、ローカルな田園風景がまだ残っているんですよ」と吉田さん。ものはついでと近隣の真喜屋ダムまで足を延ばす。ビオトープで川エビを捕る親子の姿が微笑ましい。流れ落ちる水音を聞きながら、涼風に汗が心地よく引いていく。

ほどよく小腹も空いたところで「Good morning真喜屋」に立ち寄り、サンドイッチをテイクアウト。「阿波茶武（アハチャビ）」と呼ばれる小高い丘まで漕ぎ上がり、東屋の中でおいしくいただいた。

この丘はアブシバレーなど集落の行事が行われる場所だそうで、一角には拝所も設けられている。住宅街のただ中にあるのに静謐な空気が漂っているのは、長い間住民の手でていねいに維持されてきた聖域だからなのだろう。

1. 屋我地島へ渡る一行。電動アシスト自転車ならば橋の両側の景色をゆっくり楽しめる
2. 青い海までつながっていそうな一本道をどこまでも走る。こんなにも風を感じる瞬間があるだろうか？

屋我地島で欲しいものは？

Good morning 真喜屋で腹ごしらえを終えた一行は屋我地大橋を渡って屋我地島へ。目的地はドーナツと雑貨のお店「CALiN（カラン）」。土居脇さんは名桜大学のお友達と来たことがあるそうで「女子学生にも人気のお店なんですよ」と話す。

店長の山本真穂さんは伊差川の人気店「しまドーナッツ」の経営者。「お客様にもっとゆっくりしていただける場所を」との思いから、カフェと雑貨の店を屋我地に開いた。木工や焼物、ドライフラワーなどの雑貨は主に県内の作家によるもの。屋我地サイクリングの帰りに休憩がてら立ち寄ってみるのもお薦めだ。

一行は渡具知武豊市長とお会いすべく、丘の上に建つ屋我地支所に足を延ばした。パイン農家の藤原邦彦さんと連れ立って現れた市長が強く推すのは名護産のパイナップル。

「沖縄で栽培されるパインの代表的な品種『N67-10』は、農業試験場名護支場で生まれたんです。Nは名護の頭文字なんですよ」

現在は晩夏に長く穫れる品種「サンドルチェ」のブランド化に力を入れているそうだ。

3. CALiNに到着　4. 人気の蜜蝋（みつろう）ラップは地元の方が作っている　5. 看板商品の「しまドーナッツ」　6. 旅はまだ終わらない！

CALiN
名護市運天原522
TEL.0980-52-8200

土居脇さんの右が渡具知市長。後列中央はパイン農家の藤原邦彦さん。「サンドルチェは秋が旬の品種。今年はまだ数が少ないのですが、来年以降どんどん生産数を増やしていきます」。両脇は屋我地支所職員の比嘉章祐子さん（左）と上間千也さん

1日の終わりは最高の宿で

旅の締めくくりに訪れたのは、本日の宿泊先であるコンドミニアム「コルディオ プール＆ヴィラズ済井出」。家族など大人数での宿泊を前提にしており、部屋は広々、庭にはプールもあり、ラグジュアリーなひと時を過ごすことができる。

家に帰ったような気分でくつろぎつつ、今日のショートトリップを振り返る。「今まで行ったことのない小道の先にも魅力的な場所がいっぱいあって、名護の新たな一面を発見した思いです」と土居脇さん。

身近でありつつ広く深い名護の懐。漕いで停まってブラブラ歩く、ブラナゴには自転車がぴったりだ。

1. 立ち並ぶコンドミニアム。すぐ裏手には海が広がる　2. 寝室は２部屋用意。ベッドが大きければ見る夢もきっとゴージャスに？
3. 和室もあるのでチビッコ連れも安心
4. 裏の海で魚を釣り、キッチンで自炊するのもいいかも　5. プールにトレーを浮かべて朝食を提供する「フローティングブレックファスト」も受け付けている　6. 心地よい疲れをリビングで癒やす３人

コルディオ プール＆ヴィラズ済井出
名護市済井出218-14
https://yadokari.okinawa